京都労山

2024年4月号
No. 370
発行日
2024年3月18日

発行所:京都府勤労者山岳連盟 発行者:田原 裕 編集製作:機関誌委員会 発行:毎月第3月曜日
所在地:〒.616-8042 京都市右京区花園伊町4 ☎.075-275-0453 FAX.075-468-1793
【ホームページアドレス】 http://www.dab.hi-ho.ne.jp/kyoto-rozan
【E メールアドレス】 kyoto-waf@dab.hi-ho.ne.jp

京都府勤労者山岳連盟

京都労山『六つの合い言葉』

（一） 私達は、山を勤労者の身近なものにする為に力を合わせよう。

（二） 私達は、登山によって健康な身体と豊かな心を育てよう。

（三） 私達は、登山によって助け合う心と友情を深めよう。

（四） 私達は、多くの人達と交流し山を愛する仲間を増やそう。

（五） 私達は、力を合わせ正しい山のモラルと高い技術を生み出そう。

（六） 私達は、安全で確実な登山思想を身につけよう。

４月号目次

＊ 六つの合い言葉・目次

＊ ステップアップ　青年委員会・川端純子・・・・・・・・・・・・・・・・・０１

＊ 事務局長会議報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・０２

＊ 全国連盟総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・０３

＊ 第 59 期京都連盟総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・０８

＊ 春山連絡会の案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

＊ 過去の事故一報をみての考察第２回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

＊ ハイキング委員会交流山行の案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

＊ 大文字山登山道整備の案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

＊ 能登半島地震支援ボランティア募集案内・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

＊ 能登半島地震被災者支援第１回活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

＊ 連載企画・日本二百名山登頂シリーズ第３４回「御神楽岳」・・・・・・２４

＊ ４月号の案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

＊ 連盟月間予定表「カレンダー」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・裏表紙

「59期もステップアップをめざそう！」

青年委員会　川端　純子

５９期がスタートしました。

私事ですが、初級登山学校を卒業して、今年で１２年になります。初級卒業後は読図勉強会や冬山勉強会を受講させていただきました。そして３年前には大阪労山の中級登山学校を受講しました。所属会はハイキングのみの会なので、この１２年に歩荷や読図、テント泊、雪山、岩登り、マルチピッチクライミングなど様々なことを学ばせてもらいました。所属会の山行だけでは知ることもなかった世界を体験し、山の魅力にどっぷりはまりこんでいます。そして何よりもそれらの勉強会で多くの方に出会い、刺激を受け、かけがいのない山仲間ができました。超人の同期や岩の達人の同期との山行前には、トレーニングに力が入ります。

やっぱり目標があれば頑張れますね。

今期は初級登山学校開講年です。冬山勉強会も毎年開講されています。
みなさんもぜひ一歩を踏み出し、新たなことにチャレンジしてみてください。まだ見ぬ世界がきっと広がります。そして一緒に頑張れる山仲間ができます。
今期が更に楽しく、ステップアップできる１年になるといいですね！

さあ５９期が始まりました。行きたい山、やりたいことがありすぎて、今期がどんな１年になるのかわくわくしています。
みなさん、今期も山でいっぱい笑いましょう！！

事務局長会議報告　（各会と連盟の活動報告・意見交換・情報交換を目的に開催）

３月度会議：報告のみ９労山

・報告は、西山,伏見,左京,やましな,乙訓,右京,明峯,山城,洛中

各会の活動状況(前月の例会や集いの実施状況・予定等)[各会・クラブ機関誌参照]

・[右京]＜例会＞2/18 堂満岳３人,23 皆子山５人＜予定＞3/10 山背古道,20 若草山＜その他＞3/24 第５９期定期総会(教文センター),２月末 55 名（男性 23,女性 32）

・[やましな]＜例会＞2/10 綿向山 11 人、六甲縦走パート１須磨浦公園～新神戸駅３人＜その他>２/24 第 40 回定期総会山科地域体育館 39 名(委任状 32 名)今後の問題点の意見交流ができた。40(R25 年)周年記念事業。能登半島義援金 30,130 円。

・[西山]＜例会＞2/3～４余呉テント８人,20 三頭山 15 人＜予定＞3/11 天王山トレ、16～17 ぐるり富士山トレイル＜その他＞２/11 第１回山行計画会議 41 名参加。８月までの計画を提案・確認。3/1 付２名入会。136 名。（男性 42、女性 94 名）

・[左京]＜例会＞2/18 滋賀竜王岳・鏡山４人,＜予定＞3/10 大文字山（東日本大震災追悼登山）＜その他＞3/13(水)PM2 時半より運営委員会(委員以外の参加も可)

・[乙訓]＜例会＞２/10 須磨アルプス 17 人,17 小野アルプス 14 人,24 交野山 6 人＜予定＞3/10 加西アルプス,23 三上山＜その他＞3/1 現在会員数 99 名(男 46 女 53)

・[伏見]＜例会＞２/4 三峰山７人,2/23 雪山訓練赤坂山 11 人＜予定＞3/17 京都トレイル NO11,24 公開山行ポンポン山＜その他＞会員数 52 名（男性 22,女性 30）

・[明峯]＜例会＞2/11 大文字山体力トレ８人,23～26 野沢温泉スキー13 人＜予定＞3/18 延暦寺,30 小塩山＜その他＞つどい「春から夏の登りたい山を出し合う」

・[山城]＜例会＞2/3 高見山７人, ２/18 雪山岩籠山２人＜予定＞3/23 交野山

・[洛中]＜例会＞2/3 北山峰床山６人,12 大原天ケ岳,24 赤坂山～三国山＜予定＞3/16 福井（取立山～鉢伏山）,30 京都トレイル（ニノ瀬から）＜その他＞会員数 99 人

連盟の取り組み、活動報告　（連盟の取り組みや活動状況を連盟事務局から報告）

・全国第 36 回総会､2 月 17～18 日東京府中で開催｡京都から全国理事として平尾さん、代議員として大江、青山郁夫、西村の合計４名が出席した。京都労山で報告します。

・京都連盟第 59 期定期総会開催　３月３日(日) ｐｍ１時半～４時半まで京都アスニーで開催。WEB 参加は丹後と福知山のみ。残り 17 労山は会場参加となる。第１号～３号議案承認になり、第 59 期が開始となった。

・第４３回近畿ブロック搬出技術講習会。３月３日締め切り先着順→15 日まで延長
　４月６日初級コンパニオンレスキユー、ハイキング班、７日岩搬出、岩レスキュー

・59 期に新しく創成された遭対部の第１回目の会議が３月 18 日(月)開催予定。

次回４月２日(火)の事務局長会議は WEB 専用にて PM７時半開催します。

日本勤労者山岳連盟　第３６回総会の報告

2024 年2月 17 日（土）～18 日（日）
東京府中ホテルコンチネンタル

総会議案
・１号議案　第 35 期下期の活動総括と第 36 期上期(2024 年度)の活動方針
・2 号議案　第 35 期下期の財政活動総括と第 36 期上期の財政方針、予算案の策定
・３号議案　全国役員の選出、その他

今総会の主な目的と主要な課題は、次のとおりである。
（１）広範な登山者の要求実現と登山環境整備のための、組織強化と会員拡大を目指す活動について
（２）コロナ禍後に、増え続ける遭難事故への対策と安全登山教育の拡充について
（３）環境保全に取り組み、豊かな山岳自然を守る活動について
（４）紛争の無い平和な社会を実現し、登山文化を継承・発展させる取り組みについて

＜以下報告は西村担当＞
京都からは、全国連盟の理事として平尾繁和さん、代議員３名大江六夫さん(副理事長)、青山郁夫さん（常任理事)、西村悦治(事務局長)が出席、又傍聴として青山久子さんの参加があった。

・会長の挨拶。2月１７日１３；００スタート　１月の能登半島地震の被害者、又遭難事故が増え死亡した７人に対して、黙祷から総会は始まった。平和活動や気候変動の話があった後、会長より異例の提案がなされた。総会資料集①39 頁にある「労山基金運営委員会第 36 期上期の方針」4.に示された、一般財団法人山岳基金への運営資金,として 9,000 万円を拠出するという条項について。これは、理事会で議案

の討議に２日前に示されたもので、十分な検討がなされていないと苦言があり、今総会で代議員による議論が必要であると問題提起された。

・１号議案について、理事長以下各担当の部長より報告と方針の説明があった。先ずは川嶋理事長より登山をめぐる社会情勢と国内登山の情勢について

次に、久保副理事長より組織強化・拡大についてー2023 年 11 月 556 団体 16616 人、2014 年から 9 年連続減数となったが、会員数の減少数は少なく抑えられた。2020 年からコロナ禍の中で、「対面」の全国組織対策会議を開いてきたことと地方連盟・会クラブの独自の取り組みが、48 都道府県の半数で会員数を増やしたことに繋がった。

　続いて、石川副理事長より、遭難対策と現状についてー2023 年の労山事故者数は 366 名と過去最高を更新。今後、コロナ後で山行件数が増えたためか、分析を進める。地方連盟の遭対活動を支援、安全登山の教育体制を強化する。続いて、自然保護活動、ハイキング分野、メディア局、女性と登山、海外委員会の各部長より活動報告と方針の発表があった。

・石川理事より、2 号議案 2023 年度の各会計決算報告があった。

・会計監査について

　渡辺監事より、2023 年度の監査について公正妥当で適正に処理がなされていると報告があったが、来期の方針(9000 万の拠出)について総会での議論が必要と異例の表明がなされた。

・石川理事より、2 号議案 2024 年度の各会計予算案の提案があった。

・理事会提案についての質疑

　川嶋理事長より、2024 度に予定されている 9000 万の拠出について説明。

① 資産の寄付先は一般財団法人山岳基金である。２年前に作ったもの。

② 権利能力なき社団である日本勤労者山岳連盟の目的を遂行するための財産管理を行う。

③ 日本勤労者山岳連盟が法人格を持たず、資産があくまで個人名でバラバラの状態にあり、個人の相続問題に巻き込まれるリスクがある。

④ ③のリスクを回避するために、山岳基金の方に寄付とすることで資産を移す。担当の税理士、弁護士と相談済みである。

⑤ ２年前の総会で、この流れを説明し、了解を得ている。

⑥ 事務所の不動産、国債、預金等５億円位の資産があるが、国債の満期等のズレがあり、一遍に資産を映すことができず、先ず来年度に 9000 万を寄付して資産移転を図る。今後も継続して移転を図るもの。
総会終了後に、理事会から今回の資産移転の事案の流れについて、説明のペーパーを出すことになった。

• 地方連盟からの報告

① トイレ問題
福岡県連ーバイオから携帯トイレへ。九重に携帯トイレブースができた→牧之原のトイレ回収ボックスに登山者がゴミを捨てる。登山者へトイレマナーの啓蒙が必要である。
自然保護委員(山本)→自分で出したものは自分で処理する。
岩手県連→早池峰山登山。地方公共団体より要請あり。労山で携帯トイレ専用ブースから担ぎ降ろしを 20 年やっている。登山者に持ち帰りの啓蒙活動が必要である。

② 能登半島地震→死亡者は出なかったが、石川県連で 10 数名の被災者がでたと報告があった。

③ 兵庫労山→今年 2000 人回復したが、ベテランが活躍している。現状、60 歳以上が 76%、70 台が 900 名以上、80 台でも 200 人以上いる。若い人を如何に入会させるか？老人はバトンを渡す。そしないと、３年～５年で 1000 人位になる。

④ 大阪労山―兵庫トレーニングは有効である。大阪労山では夏山での事例から「転倒」事故を減らす研究をしている。筋トレしても人は必ずこける。受け身も大切。

• 18:30 に一日目の議論が終わり、19:00 より懇親会に入る

2月18日　8:30より２日目総会は始まる。

・全国理事より答弁。
　趣意書を新しく時代に併せて改訂していきたい。

・神奈川県連　早川代議員
　9000万の根拠が納得いかない。新しい法人がどのように活動するのか？内部留保たまり過ぎ。
　大きい事故に３億円の金額は妥当なのか
・宮城県連
　山の関しては、山岳団体が専門である。登山道整備を引き受けている。みちのくトレイルで県境を越えた交流により、遭難対策、山岳自然保護活動を行っている。
・討論のまとめ　川嶋理事長
コロナ後久しぶりに、完全対面の昔の形の総会ができた。いろんな意見が出て、又交流もできて、意味のある総会になった。
・総会決議の採択
　１号議案　保留０　反対０　賛成53　　承認
　２号議案　保留６　反対７　賛成40　　承認　　となった。
・役員選挙
　新任３名を含み全員承認になる。
・栄誉功労賞授与
・退任役員の挨拶
・石川労山代表者に全国から集まった義援金(２００万強)の授与
・新役員の紹介、挨拶

１１：４５　閉会

総会全般の印象(西村)

① 9000万移転の予算建てが問題、理事会からの説明文書を求めたい。
② 総会資料、全般に訂正、差し替えが多く、事前の精査不足。
③ 総会の議事進行に議事運営委員が絡むことが多すぎる。議長の職権なし。

京都府連盟･第59期定期総会報告

報告　大江六夫

京都府勤労者山岳連盟の第59期定期総会が3月3日(日)、京都アスニーにて開催
され、会場参加とリモート併用で68名の出席のもと議案の審議が行われた。

定刻より司会による開会宣言の後、議長団に伏見山の会・入江代議員、舞鶴労山・中田代議員が承認され議事が進められた。

田原会長あいさつ

年明けに能登地方で地震があり、大きな災害が発生した。京都連盟から第1次ボランティア支援隊が派遣された。今後も能登の方々と連帯して支援を続けていきたい。

昨年、ロシアのウクライナへの軍事侵攻に反対する特別決議を上げたが、今年もイスラエルによるガザへの軍事攻撃が行なわれている。こうしたことを利用して日本でも戦争準備が進められている。“平和なくして登山なし”これは労山の基本的な姿勢、このスローガンを掲げ、戦争のない世の中を作っていくために労山運動の中で頑張っていかなければならない。

いま民主主義が脅かされようとしている。民主主義は脆弱で政治の動向に左右される。民主主義と登山活動は一体のもの、民主主義が否定されると登山も否定される。
労山も政治の動きにしっかりと目を向けていくことが大切。

来賓あいさつ及びメッセージ

あいさつ：労山兵庫県連・大杖副理事長より

メッセージ：全国連盟・川嶋高志理事長、奈良県連・前圭一会長

資格審査委員会(平尾理事)

総会の成立を報告。

選挙管理委員会(山下理事)

役員選挙の提案・報告。

活動の報告と方針の提案(坪山理事長)

・今総会の討議の中心は旧救助隊の解散に伴う新組織・新体制の立ち上げにある。従来か

ら遭難対策分野の活動は教育・遭難対策委員会で行っていたが、新たに遭難対策部を設け、京都連盟全体の任務として救助隊と遭難予防を含む活動を進めていく。

・遭難対策部は各会の山岳事故、ヒヤリハット事例を収集し、全体で検証を進める。遭難予防、負傷事故予防の対策を立てる。夏山、雪山シーズン前に各会連絡会を開催、また応急処置の講習会などの立案。
・旧救助隊は事務局の世代交代が図れず、高齢化で活動が困難になってきた。また社会的に救助活動のシステムが変わってくる中で救助隊の存在価値が問われてきた。
・京都の救助隊は京都連盟の組織であったが、28 年間独立した立場で活動してきた。それも一因にある。京都労山一丸で救助隊を支えていけるような体制を作っていかなければならない。58 期ではこれら組織体制確立のための準備を中心に進めてきた。
・遭難対策部に置く新しい救助隊では、各訓練においても山行パーティの中で助け合うコンパニオンレスキューの活動を中心に進めていく。レスキューの技術というのは救助隊員だけでなく、それぞれのパーティの中でどれだけ備わっているかでパーティの安全性は高まってくる。連れて行ってもらうから必要ないではなく、参加者全員が身に着けていくことが遭難事故を減らすことに役立つ。遭対部が教育委員会とともに京都労山の両輪として活動していけるように形を作っていきたい。
・第 15 回初級登山学校が無事終了し、10 名の会員が卒業した。
・自然保護分野では土壌調査やクリーンハイクの実施、北陸新幹線延伸問題の要望署名の継続に加え、京都市内パレードによるアピールなどに取り組む。
・各専門委員会の定例会議はリモート併用で、遠方の委員の参加が広がった。
・昨年新事務所に移転し、新しい運動拠点での活動となった。
・59 期の運動方針案の中心点は遭難対策部の立ち上げ。定例の会議を開催し遭難事故、負傷事故、ヒヤリハットの検証を行う。救助隊員のレスキュー技術を高めるため、訓練山行、講習会など教育の場を設ける。必要に応じて夏山・雪山連絡会等を開催して情報を共有する。
・レスキュー技術は救助隊だけでなく、全ての登山者が身に着けることが大切。それが遭難対策部の重要な役割、各会から部員を派遣してほしい。
・教育委員会では、秋の第 16 回初級登山学校の開校に向けて準備を進める

会計報告（氏野理事）

収入は初級登山学校の計上分が増収、各会への原価販売によりカレンダー収入はなし。支出面では初級登山学校講師経費、救助隊解散による組織再構築準備会等での資料集作成費用等が増加。来期予算案は前年実績をもとに算出。新たに設ける「遭難対策部」に予算を計上。

◇質疑･討論～代議員の発言から

◇

吉田代議員（伏見山の会）

・活動方針の中で、教育委員会と遭難対策部が作られることに期待している。理事任せ、連盟任せではなかなか進まないので各会からの部員の派遣は大切なこと。昨年の遭難救助訓練に参加する中で会員の意識が変わった。みんなで勉強していきたい。

・会では創立 15 周年を迎えることになり、記念山行を予定している。会員数は一時コロナで減ったが回復し、現在 52 名となってきている。今年は飛躍の年としたい。

・ホームページの改善・充実に力を入れてきた。写真も交えて会員の元気な姿を発信することで新しい人からの問合わせが増えた。ホームページの力はすごいと感じた。

・昨年は公開山行を近場の山で 4 回実施、今年は 5 回を予定している。

・大文字山でトレーニング山行を続け、新しい人にも呼び掛けている。ホームページから参加申し込みが相次ぐ。

菊沢理事（WAO 亀岡）

・会では創立 30 周年を迎え、記念山行を 17 名の参加で実施し、会員交流を図った。。

・会員数は 40 名を切ったが、日常例会は 10 名を越える参加で会員の期待に応えられている。京都近辺の山をシリーズ化して取り組んでいる。

山本代議員（洛中労山）

・洛中では直近の初級登山学校卒業生 6 名が力を発揮している。例会の提案や山行の実施に意欲的で大いに期待している。次回の初級でも多くの受講を促したい。

・４月から登山教室を実施予定。これにも初級卒業生を中心に若い人が実行委員として参加。ポスターの貼り出しや愛宕山や大文字山でのチラシ配布などで案内を広げている。

・いまホームページからの問い合わせが増えてきており、お試し山行に誘う中で新たに 3 名の入会につなげた。

・会組織は 90 名から 100 名の間を前後し、60 代以上が半数を占めている。今後は運営役員の世代交代をどのように進めていくのかが課題。

・新会員を迎える中で教育にも力を入れていく。ミニ山塾の定例開催をめざしたい。

射場代議員（自然保護委員会・やましな）

・自然保護委員会では北陸新幹線延伸問題での学習会を 6 年間実施。署名活動は 4 年前から続けてきた。1 万筆を

目標に進め、現在 8,600 筆余。今年も引き続き取組みを進めたい。総会出席者にも署名用紙を配布するので運動を広げてほしい。

笠置代議員（乙訓山の会）

・乙訓ではこの 1 年間 34 名の新しい会員を迎えた。女性が多く、平均で 55 歳程度。入会後やめていく人はいない。
・会のホームページをリニューアルするとともに、YAMAP コミュニティを活用し乙訓山の会を紹介。ホームページから会の活動を知ってもらい SNS を通じて体験山行に誘ってきた。そこで仲間を知れば気軽に入会してくれる。
・若い人にとっては不安があるが、会報を送り会を知ってもらうことが大切。
・入れば何かやらされるという雰囲気はなく、自主的に楽しんでやっている。
・いま新しい会員は自分から進んで山行例会を提案したり、春合宿の計画を出したりしている。上からの押し付けで何かを頼むのはタブー。

辻理事（舞鶴山遊会）

・舞鶴山遊会は現在 32 名、ここ数年大きな増減はない。
・会でも山本先生の講演後、トレーニングの重要性が高まり、近場の山でトレーニング山行を継続している。
・月 2 回の例会山行は 10 名以上の参加があるが、それ以外にもゆっくり例会やスケッチ山行、ウォーキング中心の街歩き等実施し、高齢会員をつなぎとめている。

別当代議員（乙訓山の会）

・ここ 2 年、担当者 2 名の奮闘で多くの新入会員を迎えられた。自分自身山が楽しいので、新しい会員とも一緒に山へ行き、楽しさを伝えていきたい。
・しかし、新しい人の要求をすべて受け止めるには不安要素もある。ていねいに育てていく責任がある。やる気はあるので連盟の訓練山行にも参加を促す。
・リーダー不足の現状を抱える。意欲はあるが、まだ世代交代にはつながらない。

討論のまとめ（坪山理事長）

・今回 7 名の方々からの仲間づくりと安全登山に関する発言があった。仲間を増やす活動としてホームページの改善、お試し山行へのお誘いなどの経験が出された。
・高齢会員のためのサポートを行い、トレーニングの重要性を学ぶ中で例会山行の中に取り入れている活動なども紹介された。
・連盟では 8 年間組織数は右肩下がりが続いたが、やっと会員減をくい止め 8 名の増となった。京都労山が増えると山での影響力も高まり、府下すべての登山者の安心につながる。

・新しい部門として「遭難対策部」を提案する中、当初は会の活動で手一杯、これ以上人は出せないという声もあったが、前向きな受け止めで期待している。
・仲間を増やすことと、安全登山を会の中にしっかり位置づけ、新しい仲間に対しても安全登山ができるよう周りからしっかり援助していく。
・59 期は仲間づくりと安全登山を軸に進めていく。各会の協力で成功させたい。

資格審査報告

現在の出席代議員数は会場 61 名、リモート 6 名で総会定数の過半数で総会は成立。

議案の採決

第 1 号議案：58 期活動報告・59 期活動方針　第 2 号議案：58 期決算報告・59 期予算
第 3 号議案：規約の改正　　いずれも賛成多数で採択

役員選挙（選挙管理委員会）

立候補はなく、理事会推薦の理事 43 名、会計監査 2 名の信任投票が行われ、全員の信任が報告された。
会長、副会長については田原会長に代わって新たに中村新会長の新任、横井副会長の再任が承認された。

退任･新任あいさつ

青山郁夫常任理事（やましな山の会）・田原裕旧会長（伏見山の会）の退任あいさつ
中村好夫新会長（西山ハイキングクラブ）の就任あいさつ

栄誉功労章の授与

府連盟で 13 名の会員が発表され、代表して平尾常任理事（田辺山友会）へ送られた。

能登半島地震救援募金中間報告

本日までの第 1 次集約で、6 つの会・個人から 128,130 円が寄せられた

総会役員、議長団の解任

◎第 1 回連盟理事会の開催と報告

12 名の常任理事の選出と北部から 1 名選出することを確認。坪山理事長、平尾・大江両副理事長の再任。
今回新たに遭難対策部を立ち上げるが、遭対部が仲間を広げる活動につながるような労山にして行きたい。

総会閉会宣言（司会）

以上

2024年春山連絡会のご案内

遭難対策部

恒例の「春山連絡会」を下記日程で開催いたします。今年は実参加の対面と、リモート参加を併用して開催いたしますので、遠隔地の方にも参加しやすいかと思います。春山・残雪期の山行を企画されている方は、是非ご参加いただき春山山行について意見を交わし交流を深めましょう。この取り組みを通じて、山行中の危険要因を共有出来れば安全登山に繋がるかと思います。

山行の企画がある方は、山行計画書を送付ください。詳細が決まっていない場合、簡単な企画書のようなもので構いません。あるいは、手ぶらでの参加でも歓迎です。是非ご参加ください。

過去の春山山行の写真を交流します。SDカードやUSBメモリにてデータをお持ちください。写真を見ながら交流したいと思います。よろしくお願いいたします。

記

日　　時	4月5日（金）19：30～21：00
場　　所	連盟事務所2階会議室（京都市右京区花園伊町4） リモート会議併用
山行企画	3月31日（日）までに下記アドレスへ送信
参加希望	4月1日（月）までに下記アドレスへ申し込み

※送信先アドレス：zrxshock@yahoo.co.jp

※参加者には事前に山行計画書・資料をメール配信します

※リモート参加者には後日返信メールにて参加用URLを送付します

以上

記：元救助隊員
やましな山の会 青山郁夫

京都府連盟　事故一報を見て－その２－

88 件の内、特に気になった事故原因で普通の山登り（岩沢登り、屋内壁、海外等を除く山行）の転倒、転落、転倒転落事故の状況はどのようになっているのか調べてみました。

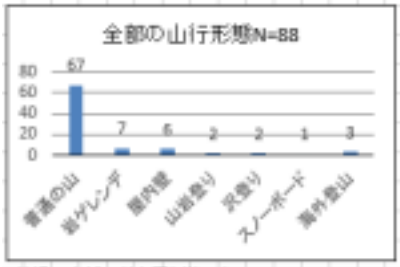
★普通の山登りの件数は 88 件中 67 件(77%)となっていました。

★67 件中、転倒、転落、転倒転落が 42 件 63%も占めていいます。それ以外は 15 件でマダニが 6 件と多く、その他の原因件数は 1～3 件と少なかったです。

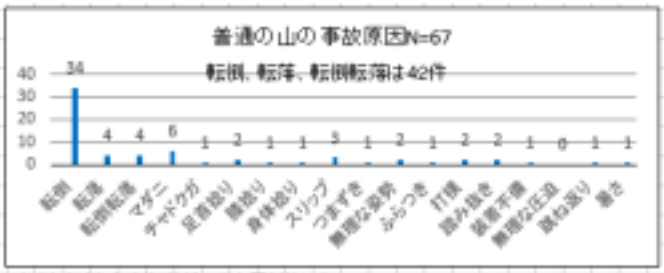
★以下、転倒、転落、転倒転落の 42 件について調べました。

1.	事故発生年月	全体と同じで、年を問わずまんべんなく多発している。月は全体とは違い 9 月に多い。他はほぼ同じである。
2.	事故発生時間帯	全体とは違って出発時の 8 時台も多い。14 時台の突出は全体と同じである。
3.	事故遭遇年代	全体と同じで、60 歳代が 21 件 50%と圧倒的に多い。60 歳代 70 歳代を合わせると 36 件 86%にもなる。
4.	事故遭遇男女別	全体より女性が 69%とさらに多くなっている。（全体の女性は 63%）何は原因なのだろうか？
5.	事故時の積雪有無	雪ありの時の事故は 5%と、全体より少なくなっている。（全体の積雪時は 8%）
6.	目的の山の標高 N=41 件	全体と同じで、低い山が多く 1000m以下が 25 件 61%と半数を占める。2000m 以下では 35 件 85%。 （標高は目的の山の標高で事故時の標高ではありません）
7.	転倒、転落、転倒転落件数	転倒 34 件 81%と圧倒的に多く、転落、転倒転落が各々4 件 10%だった。
8.	ケガの症状 複数回答 N=50 件	骨折が 33 件 66%、骨折の内、手の骨折が 20 件 61%もある。いずれも全体より多い。足の骨折は 7 件 21%と少ない。肋骨脊椎骨折もある。
9.	パーティー人数	全体と同じで事故はパーティーの人数に関わりなく発生している。
10.	事故発生場所 N=34 件	42 件の中で場所が分かった 34 件の内、下山時、下り道で 24 件 70%も事故が発生している。平坦な所も 7 件 21%と油断できない。登り道は 3 件 9%と少ない。
11.	事故発生原因 N=32 件	42 件の中で原因が分かった 32 件の内、足滑らしが 27 件 84%と圧倒的に多い。
12.	下山方法 N=37 件	42 件の中で方法が分かった 37 件の内、自力下山、多分自力下山が 32 件 86%となっている。介添え下山が 3 件、ヘリ 1 件、救急車が 1 件であった。

実績では、事故は 60 歳代の女性で 14 時台に雪が無く普通の低い山で下山時に足を滑らして転んで手を骨折するが痛いのを我慢して頑張って自力で下山している傾向が見られました。

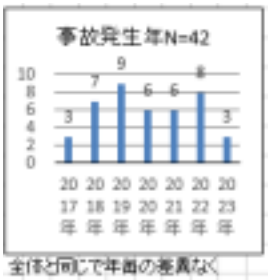


普通の山が67件と圧倒的に多い。



転倒、転倒、転倒転落が42件と圧倒的に多い。

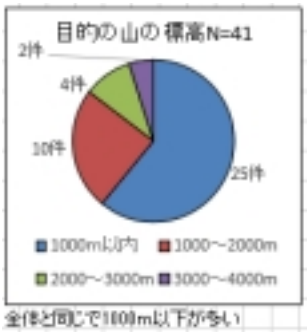
以下、普通の山の転倒、転倒、転倒転落について評価した。



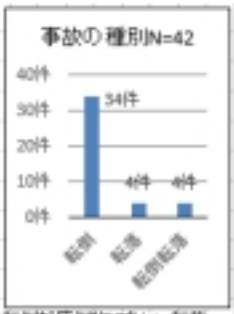
全体と同じで年間の差異なく発生している

全体とは違って9月に多くなっている

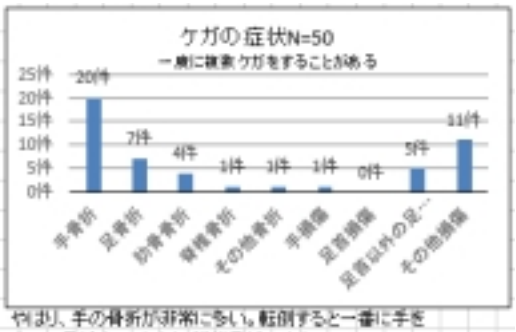
全体とは違って出発時の時も多い。14時台の突出は全体と同じである。



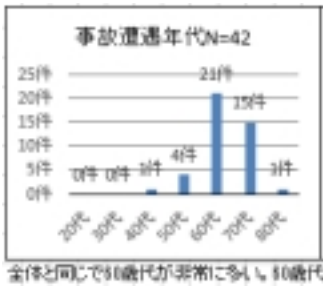
全体と同じで1000m以下が多い



転倒が圧倒的に多い。転落、転倒転落も多い



やはり、手の骨折が非常に多い。転倒すると一番に手を突いて骨折する。転倒で脊椎骨折の人もいる。

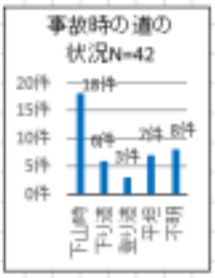


全体と同じで60歳代が非常に多い。60歳代と70歳代を合わせると全体より多くなり3割になる

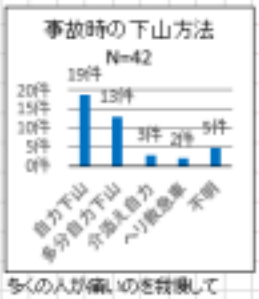
全体よりさらに女性の方が多い

雪あり が全体よりさらに少なくなっている

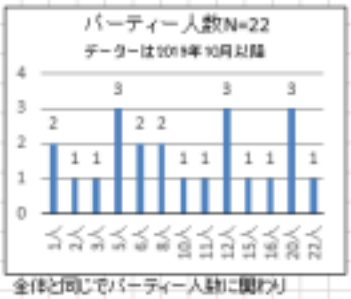
若いころは足を滑らしても瞬時にバランスを取って持ちこたえるが年を取るとそのまま倒れてしまう。



下山時、下り道で事故が発生している。
平坦な所も油断できない。



多くの人が痛いのを我慢して自力で下山している。介添え下山も心強い。ヘリは予想より少なかった。



全体と同じでパーティー人数に関わりなく事故が発生

2023年6月17日作成　6月24日訂正

普通の山登り(岩沢登り、屋内壁、海外等を除く山行)の転倒、転落、転倒転落　事故一覧抜粋　42件
2017年9月～2023年6月

項目	全部の山行形態								普通の山登りの全部の事故原因																	
	普通の山	岩ゲレンデ	屋内壁	山岩登り	沢登り	スノーボード	海外登山	合計	転倒	転落	転倒転落	マダニ	チャドクガ	足首捻り	膝捻り	身体捻り	スリップ	つまずき	無理な姿勢	ふらつき	打撲	踏み抜き	装着不備	無理な圧迫	跳ね返り	暑さ	合計
件	67	7	5	2	2	1	3	88	34	4	4	6	1	2	1	1	3	1	2	1	2	2	1	0	1	1	67
%	76%	8%	7%	2%	2%	1%	3%		51%	6%	6%	9%	1%	3%	1%	1%	4%	1%	3%	1%	3%	3%	1%	0%	1%	1%	

以下、普通の山の転倒、転倒、転倒転落について調べた。

項目	事故発生年								事故発生月													事故発生時（表示時間は○時00分～○時59分）												
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2時	3～5	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	合計
件	8	7	9	6	6	8	3	42	2	1	4	3	4	3	4	5	6	5	3	2	42	0	0	1	3	6	4	4	3	2	6	5	5	2	0	0	0	0	0	42
%	7%	17%	21%	14%	14%	19%	7%		5%	2%	10%	7%	10%	7%	10%	12%	14%	12%	7%	5%		0%	0%	2%	7%	14%	10%	10%	7%	5%	14%	12%	12%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	

項目	事故遭遇年代								性別			雪有無			標高					事故原因				ケガの症状													
																								骨折					捻挫								
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計	女	男	合計	雪なし	雪あり	合計	1000m以内	1000～2000m	2000～3000m	3000～4000m	合計	転倒	転落	転倒転落	合計	手骨折	足骨折	肋骨骨折	脊椎骨折	その他骨折	小計	手捻挫	足首捻挫	足首以外の足捻挫	その他捻挫	小計	合計			
件	0	0	1	4	21	15	1	42	29	13	42	40	2	42	25	13	4	2	41	24	4	4	42	20	7	4	1	1	33	1	8	5		11	17	50			
%	0%	0%	2%	10%	50%	36%	2%		69%	31%		95%	5%		61%	31%	10%	5%		57%	10%	10%		48%	17%	10%	2%	2%		5%	19%	12%		26%	40%				

項目	骨折																																	捻挫、損傷、傷、他									
	肩、手首、手指										足指、足首、脛、下腿							肋骨脊椎首鼻											合計	頭、首、胸、お尻					弾くも脱下出血	顔		
	肩			手首				指			足首				膝	下腿		胸		脊椎骨折				首	鼻					頭						頭部陥没創	頭部打撲	頭部外傷	後頭部下血腫		顔部顔面外傷	顔面打撲
	肩骨折	肩亀裂骨折	肩骨内顆間放骨折	関放性橈骨遠位端骨折	橈骨骨折	橈骨骨折舟状骨骨折	手首骨折	手首剥離骨折	親指骨折	薬指骨折	小指骨折	趾P関節内骨折	踝骨骨折	足首骨折	踵骨骨折	脛骨内果・後果骨折	脛骨骨折	腓骨骨折	腓骨関放骨折	肋骨骨折	胸部骨折	脊椎圧迫骨折	椎体弓骨折	背骨骨折	胸椎圧迫骨折	腰椎骨折	首骨折	鼻骨折														
件	2	1	0	1	7	1	4	1	2	0	1	0	3	1	0	1	0	1	0	1	3	1	1	0	0	0	0	0	33	1	0	0	0		0	0	1	
%	6%	3%	0%	3%	21%	3%	12%	3%	6%	0%	3%	0%	9%	3%	0%	3%	0%	3%	0%	3%	9%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	0%		6%	0%	0%	0%		0%	0%	6%	

| 項目 | 捻挫、損傷、傷、他 | | |

【ハイキング委員会交流山行案内】

担当：やましな山の会

『 比 叡 山 』

南部担当の山行は、“比叡山”を企画しました。
登り２コース、下り３コースで実施します。

＜実施日＞ ５月 26 日(日)

＜コース＞
～登り～
①“雲母坂コース”
　修学院～雲母坂～大比叡 (歩行３時間程度)

②“瓜生山コース”
　バプテスト病院～瓜生山～大比叡 (歩行４時間程度)

◎大比叡山頂 集合

～下り～
①“無動寺道コース”
　大比叡～無動寺道～松ノ馬場 (歩行３時間程度)

②“梅谷コース”
　大比叡～梅谷～三宅八幡 (歩行 2.5 時間程度)

③“ケーブル下山”
　大比叡～ケーブル～八瀬 (歩行 0.5 時間程度)

※ 申込先、集合場所・時間などは、５月号でお知らせします。

京都府連盟登山道倒木整備 ―大文字山を整備しよう

これまで登山道を使った感謝の念と恩返し、多くの登山者の安全のために

ず安祥寺上寺跡左俣登山道の整備も終盤に向かっています。左俣も後、1/4 程、6 月頃にはで完了するかと思います。左俣が終わったら右俣の整備が待っています。倒木整備は楽しいです。是非、一度、参加してみて下さい。

これまでと同様に参加者の力量に応じて、力のある人はノコギリで倒木伐採、大木運搬、力のない人は小枝切り、小枝整理、声援と分担して行いますので誰でも参加できますのでご安心下さい。ケガをした場合は労山基金も対象になります。

登山道整備は京都大阪森林管理事務所の承認を得ています。

みんなで頑張って楽しく安全第一で整備しましょう。参加をお待ちしています。

雨天時等は安全のために整備を中止します。

★実施日： 4 月 13 日（土）4 月 14 日（日）5 月 18 日（土）5 月 19 日（日）
雨天予想の場合は前日の 19 時までに判断して中止のみ連絡します。

★申し込み締め切り：実施日前の月曜日

★集合場所：JR 山科駅改札口付近　9 時 00 分（9 時には出発します）

★参加申込先：連盟登山道整備担当　青山郁夫
080-3797-4392　携帯メール　2382m.ikuo1025@ezweb.ne.jp
個々か会でまとめて申し込んで下さい。留守宅（緊急連絡先）も教えて下さい。

★参加条件：労山基金を含め山岳保険加入者

★持ち物：カッパ、ヘッドランプ、レスキューシート、タオル、安いゴム手袋（なければ軍手）、お茶、お弁当、救急薬品　ヘルメット（必携）、ノコギリ（なければお貸しします）、長靴（任意）、スパッツ、虫除けスプレー等

★共同装備：ロープ、ビニール紐、カラビナ、サムスプリント

★その他

・作業の前には危険予知を相互に行い安全作業に努める。

・木が 1/3 切れたら声を掛けること。1/3 でも突然、木が切れ落ちることがあるので注意！

・木を切る前には切れた木がどちらに落ちるか、跳ねるか常に予想して退避方法を考えておくこと。

・まだまだコロナには注意が必要です。本人や同居家族で微熱、咳、喉の痛み等がある場合は参加を取りやめて直ぐに発熱外来に行って下さい。

2024 年 2 月 26 日

京都府連盟各会の皆さまへ

京都府連盟理事長
坪山芳樹

能登半島地震復興支援ボランティア募集のご案内

能登半島地震は日々報道されているように、甚大な被害をもたらしています。 亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災されたに方々に心からお見舞いを申し上げます。

京都府連盟は救援募金の他に石川県のボランティア団体事前登録を済ませ石川県からボランティア募集があった場合は連盟ボランティア応募者に都合を聞いて調整し現地に行ける体制を整えています。

2 月 14 日に第一回目のボランティアとして石川県志賀町の被災地に 4 人行きました。「被災地の状況は思っていた以上に深刻だった。実際に行ってみて多くの人の支援を待っておられるのがよく分かった」と聞いています。活動の詳細は連盟機関誌の 4 月号に報告が載りますのでご覧ください。

年に 1 回か 2 回でもボランティアに行ってみたい、ボランティアには行ったことがないが今回は行ってみたい、ボランティアには行きたいが一人で行くのは不安だ、是非とも現地に行って困っている人のお役に立ちたい等々とお思いの方はぜひ応募して下さい。

ボランティアを希望される方は右のコードを読み取って必要事項を記入し送信して下さい。

みんなで一緒に能登半島地震復興支援ボランティアに行きましょう。応募された方には連盟担当者から必要な情報をお知らせします。

ボランティア応募コード

ボランティア応募は随時受け付けます。
申し込みリンク:https://forms.gle/uGU9uw3bVsBZUA6V8

参考：申し込みコードの記入内容

お名前　男女別　会名	住所　連絡先携帯番号　携帯メルアド　パソコンメルアド
年令	20 代　30 代　40 代　50 代　60 代　70 代　80 代
留守宅	氏名　続柄　携帯番号
ボランティア保険	加入有無
災害ボランティア経験	今回が初めて　1 回　2～5 回　6～10 回　11 回以上
活動可能日	平日　土曜　日曜　祝日　（複数チェック可）
職業	保健師　大工等建築関係　その他（無職含む）

問合せ先：連盟担当者　青山郁夫　080-3797-4392
携帯 2382mikuo1025@ezweb.ne.jp　パソコン aa-ikuo1025@maia.eonet.ne.jp

第一回能登半島地震被災者支援ボランティア報告

連盟ボランティア担当 青山郁夫

活動日：2024 年 2 月 14 日　活動場所：石川県志賀町笹波

参加者：L やましな：青山郁夫　久子　西山：松野周治　元右京：石田久夫

元旦に発生した能登半島地震は石川県を初め各地に甚大な被害をもたらしました。日々、報道される被災状況に募金だけでなく実際に現地に行って被災者のお役に立ちたいと常任理事会にボランティア募集を提案して現地に赴くことを考えました。

ボランティアは、ボランティアに参加する、参加したいと言う気持ちとそれに応じた時間的経費的な価値観がないと行けないと思います。やはり、その人の思いが一番大事だと思います。連盟ボランティア募集には私を含め 6 労山と元会員を合わせて 9 名の応募がありました。。半数がボランティアは初めての方です。

2 月 14 日 15 日、石川県のボランティア募集に応募して 4 人で震度 7 があった志賀町に行って来ました。残念ながら 15 日は被災物品仮置き場の都合で中止となり 1 日だけの活動となりました。活動の詳細は松野さん、久子さんの報告を見て下さい。

かねてから地震で使えなくなった物を「ゴミ」と表現するのは被災者の心情からかけ離れているのではないかと抵抗感がありました。どう表現したら良いのか分かりませんでしたが実際に被災地を訪ねてこれらの品物を使っておられた方に接して「絶対に、これらはゴミなんかじゃやない」、思い出深い衣類や家具、電化製品は「被災品」であり、崩れてしまった壁などは「被災物」なんだと強く思いました。

年に 1 回か 2 回でもボランティアに行ってみたい、ボランティアには行ったことがないが今回は行ってみたい、ボランティアには行きたいが一人で行くのは不安だ、是非とも現地に行って困っている人のお役に立ちたい等々とお思いの方はぜひ連盟のボランティアに応募して下さい。みんなで一緒に現地に行きましょう。

能登大震災被災者支援活動（志賀町）に参加して

2024.2.16. 西山ハイキングクラブ 松野周治

2 月 13 日夜 9 時半・京都出発、14 日午前 0 時半・徳光 PA 着、車中泊。14 日午前 4 時 50 分起床、前日に黒丸 PA で購入したサラダ巻きとヨーグルトで朝食、開いていたデイリー・ヤマザキでフレッシュコーヒーと焼きたてのゴマパン。5 時 50 分、集合地点の石川県地場産業センターに向けて出発、6 時 20 分到着。辺りはまだ暗く、我々が乗る志賀町行きのボランティアバスは到着していなかった。7 時にセンター出発、金沢駅で多くのボランティアを載せ、大型バス 1 台、マイクロバス 1 台(団体参加の我々4 名、連合石川 5 名、HAMAYA<金沢支店もある大手リサイクル企業>4 名)で約 70 名が 7 時

35 分、活動地の志賀町に向け出発した。「のと里山海道」を北に向かって走り、9 時 15 分頃、活動拠点・志賀町災害ボランティアセンターが置かれ、避難所ともなっている志賀町文化ホールに到着。登録、活動説明(全体、個別)、活動用の資材を受け取った後、センターの軽トラック（豊橋ナンバー）２台で 10 時頃、グーグルマップで読みこんだ笹波地区の一民家に向かった。ナビに従って北に約 1 時間走り民家に到着、依頼者の老夫婦の要望を聞きながら、内壁がはがれた台所などから、倒れた食器棚、冷蔵庫、タンス、TV、大小の家電などを搬出し、トラックの荷台に積みこんだ。しかし、作業前から庭にあった多数の袋詰めモルタルや、搬出した家具、壊れた食器などは、荷台のスペースから運ぶことができないまま、13 時半に民家を出発、14 時頃に災害廃棄物仮置き場の富来野球場到着、指定場所で荷下ろし後、14 時半出発、決められた帰着時間の 2 分前、14 時 58 分に志賀町ボランティアセンターに戻った。活動報告提出後、全員が揃うのを待って 16 時前にセンターを出発、17 時前、金沢出発地に戻り、約 10 時間の活動を終了した。

阪神淡路大震災（電車の終点だった芦屋での支援物資配布作業)、東日本大震災（一関などから車で移動、陸前高田経済復興支援など）に続いての震災ボランティア活動であった。今回は「災害ごみの片づけ、運搬等」であり、車中泊後の 1 日目の力作業にどれだけ貢献できるか若干の不安があったものの、リーダーの青山さんの的確な指示、奥さんと交代並びに分担しながらの運転、石田さんの見事なロープワークなどに助けられ、水道も未復旧、すでに 1 ヶ月半の避難所生活が続いている依頼者の希望にこたえることができた。できることなら 2 日目も同じ家で作業を継続し完了させたかったものの、次つぎと廃棄物仮置き場に入ってくるトラックの中でも最も多い運搬量の部類に入っていたように思う。活動の機会を与えてくれた連盟、ボランティア登録から現地との連絡など活動の中心を担っていただいた青山さん、奥さん、仲間の石田さん、現地のセンターを運営し、活動を組織する多くの皆さん（堺市社会福祉協議会の上着を着た京都に住む青年も）に心から感謝する。

作業地の笹波地区は海岸沿いの高台、輪島市との境にあり、震源地に最も近く位置していた。金沢市から内灘町、かほく市、羽咋市を過ぎて志賀町に入ると徐々に屋根のブルーシートが目につくようになった。しかしそれは序の口であり、センターを出発してさらに北上、作業地に近づくにつれて道路、建物の被害は増し、依頼者のお宅に入って震度 7 の威力を目のあたりにした。「家の再建は無理、更地にするしかない」と、依頼者は石田さんに言っていたとのことである。隣家も大きく傾き、住める状況ではなかった。

阪神淡路、東日本と同じ最大震度 7 であっても、過疎、高齢化が進む地域での直下型地震がもたらした被害は異なり、人々の暮らしと地域の再建は容易ではない。海と山、

それを人々が生かし、暮らしを豊かにし、文化を育んできた日本は地震による被害をまぬがれることはできない。景勝地能登金剛の上に立つ笹波地区をはじめ、能登半島は地域外の人々を引き付けてきた。50 年あまり前、大学院受験不合格発表当日、1 人で能登を旅した。どこをどのように周ったかはっきりしないが、輪島の旅館で目にした御陣乗太鼓の迫力は今も覚えている。もう 1 年勉強し、再受験することを決めた。能登の復興を心から願っている。

やましな山の会　青山　久子

今回能登半島地震復興支援に参加をさせていただいたのは、担うべき仕事もなく、日々つつがなく過ごしている今の私にできる唯一の社会貢献です。時間的制約も心配することなく、体力的にもまだお役に立てることができると思い立ちました。

参加して感じたことは、まず『毎日テレビで報道されている状況を見ていただけ』と『実際に行って見た』とでは大違いということです。

金沢市内の地場産業復興センターを観光バスとマイクロバスで出発し、のと里山海道を北上して志賀町ボランティアセンター、そこから軽トラで山を越えて海沿いの支援先の笹波地区に入るにつれて、被害の大きさを目の当たりにしました。

震源地に近づくにつれ、道路の歪み具合や亀裂の深さや幅の大きさもひどくなっていきますし、道路沿いの塀や電柱の倒れ方もきつくなっていきます。屋根を覆うブルーシートの数も増えていきますし、家屋の傾き方も笹波地区に入ると元の姿をとどめない箇所が増えてきました。連続して飛び込んでくる景色に地震が引き起こした 1 シーンではなく、これから続く長い道のりを現在進行形で感じました。

次にボランティア活動は自己責任であるということを肝に銘じました。

志賀町ボランティアセンターに集まったのは個人、団体含めて 70 名程でした。その中で、センターの方の『この中でミッションの軽トラを運転できる方 6 名、お願いします。』の声掛けにすかさず応じる人。皆さん手弁当で軽トラやマイクロバスに分乗して支援先に向かいます。

私たち 4 名も 1 団体として笹波地区で依頼のあった支援先に出向きました。

2 名 1 組でミッションの軽トラに乗りハンドルを握った瞬間、道中の事故は絶対に起こしていけないと緊張が走りました。携帯電話のグーグルマップのナビを頼りに初めての道、しかも途中至る所に修復の痕が見られるガタガタ道を進んでいきます。

支援先のお宅は今回が初回の訪問で、手付かずの状態でした。家の中は大きな家具が複雑に折り重なって倒れており、壁も剥がれ落ち、床は至る所にガラスの破片が落ちていて足の踏み場もない状況でした。よくこの中で依頼主の老夫婦おふたりともけがなくご無事でいてくださったことと思います。

庭には 20 以上のビニール袋に壁のスレート材が集められていました。きっと老夫婦が避難所から毎日家に来て少しずつ家の中の瓦礫を拾い集められたのでしょう。

私たちは依頼主の希望に添って食堂の食器棚や居間の和ダンスなどを外に運び出しましたが、棚から出てくる食器の数々、洋服の 1 枚 1 枚にそれぞれ想い出や生活があったことを思うと、手荒には始末できないと感じました。

軽トラ 1 台に家具、1 台に冷凍冷蔵庫やテレビなどの家電を目いっぱい積んだところでちょうどメンバーの一人が荷造りのロープワークを知っておられたので、積んだ家具類をしっかりと固定することができました。トラックがバウンドする度に荷崩れしないかヒヤヒヤしましたが、被災物品仮置き場まで運ぶことができました。作業中も移動中もボランティア活動は自己責任であるという意識で頭はいっぱいでした。

3 つ目は『継続は力なり』です。今回は受け入れ先の被災物品仮置き場の調整のため一日しか活動できませんでしたが、能登半島地震復興支援は始まったばかりです。これからも微力ではありますが、能登半島地震で被災された方々の心に寄り添って息の長い支援をしていきたいと思います。

今回の体験を決して忘れないこと。思い続けること。思いを行動に移すこと。これを約束します。

最後に今回ご一緒した西山の松野さん、走行中のナビ、ありがとうございました。的確な判断で安心して運転、活動することができました。

元右京の石田さん、人情の厚いお人柄と楽しいお話、心に残りました。石田さんのロープワークは救世主です。

郁夫さん、実行までの段取りを実に細かく考え、いろいろと整えてくれてありがとうございます。これを次につなげていきましょう。

ボランティアは物見遊山ではありません。被災地では写真撮影は禁止されています。

被災者のお宅から遠く離れた所で写しました。左の軽トラには冷蔵庫を初め家電製品が一杯。右の軽トラには石田さんが輸送結びをした家具類が一杯積まれています。

きっと、どれも被災者の方が愛して使っていた品物、思い出深い品物で家から運び出される時は淋しかったと思います。この後、被災物品の仮置き場に向かいました。

№123 御神楽岳 1386m　　2008.8.10(日)～17(日)　東北地方単独山行

11(月)室谷登山口～山頂往復

10(日)自宅～宇治川花火大会で大渋滞～東宇治 IC～南条 SA 車中泊。

11(月)

03:00 頃起床。北陸道～磐越道津川 IC で降り室谷登山口へ向かう。

09:30 室谷登山口着。ナビの案内で山道を来たが道を間違え御神楽温泉で教えて貰ってやっと着いた途端にアブの大群に襲われる。車の中に大量に入って来てアブと闘い乍ら朝食を済ませ、次の目的地飯豊山登山口をナビ設定する。

09:45 室谷登山口発～登山道にはフジバカマ・イワガラミが多い。アブはそれ以上！登山口付近はオニグルミの大木が多く、やがてブナの森に変わる。

10:55 水場着。昼食・休憩。余りの蒸し暑さ、3時間しか寝ていない身には応える。

11:06 水場発。ガイドブックやネットの地図にもこのルートは無く標識だけが頼り。

12:05 蝉・室谷コース合流点。左に広谷川～湯沢出合からの痩せた岩稜の険しい蝉コース(栄太郎新道)を見下ろす。小さな沢を渡った後、対岸にロープの急登があり、暫く行くと「御神楽岳迄３時間」の標識があった。更に行くと「２時間 40 分」の標識、やがて「最後の水場・１時間」の標識もあり、林間の割と歩き易いコース。水場の水もゴクゴク飲めて旨い。

12:16 御神楽岳山頂着。薄くガスって遠望利かず残念。本名御神楽岳から縦走してこちらへ向かって来る人が１人いる。

12:21 御神楽岳山頂発～雲が広がって来たので下山を急ぐが体が重い。走れない！

13:08 やっと水場着。水１本とアクエリアスも空になり２本分水を補給。

14:10 登山口着。車内のアブは暑さで死滅していたがドアを開けた途端新たに入って来た。ナビに従い次の目的地飯豊山登山口の川入に向かう。上川 IC 下を通り R49～R459 へ。R459 は一応舗装されているが幅が 4m もない国道。途中悩んでたまたま通りかかった弥平四郎方面に聞く人に教えて貰う。少しでも車を止めて窓を開けるとすぐにアブの大群が車内に入って来る。

16:16 川入着。飯豊鉱泉は既に廃業していて、予約している筈の民宿飯豊山荘を探して行くと「13 日しか聞いていない」との事。「今日は無理」と言うので民宿高見台を紹介して貰い泊まる事が出来た。後で妻から電話があり「飯豊山荘からまだ来ないが」と電話があったとの事。どうも山形県側の飯豊山荘と福島県側の飯豊鉱泉にある飯豊山荘とを間違えて予約した様だ。ともあれ無事山行を終え宿でゆっくり体を休められる。風呂上がりに美味しい食事とビールに至福の一時を過ごす。

この日泊めて貰った民宿高見台は、本山小屋の管理人達が定宿にしている宿で「高見台に泊まった」と言えば食事も出して貰えると言うので、本来なら自炊の処を食事付きで泊まる事事が出来た。しかも小屋の人達が登る短縮コースの登山口まで車で送って貰え３時間以上短縮する事が出来、最高峰の大日岳迄１日目に行く事が出来た。但し、レトルトカレーライスが 1,000 円、お代わりも 1,000 円でビールも 350mℓ 1,000 円と日本一高い(？)物だった。

4月号案内

表紙の写真　表紙の言葉　　青山大地さん（やましな山の会）

「山友（“農園若づる”より）」

我が家のライフワークで月一回、兵庫県多可町へ農作業のちょっとしたお手伝いに行っています。“山友(妻の初級登山学校の同期だった辻朋子さん)”が、そこに移住し無農薬でお米作りを。太陽の日を浴びて季節を感じながら汗をかく農作業がとても気持ちがイイし、火を起こして大きな羽釜で炊いた辻ちゃんのお米と庭で採った季節の野菜たっぷりおかずをみんなと食べるお昼ご飯タイムも楽しみの一つです。

お米を作る一つひとつの過程そのものも普段知らないことばかりで、実際に体を動かしてみんなと体験できる面白さ(大変さ…)は勿論ですが、それ以上に辻ちゃんとの会話やその行動力にいつもエネルギーをもらっています。彼女は常に前向きで、目標に向かって、“でも”とは決して言わず、そのために必要な準備を一歩一歩して、実行する。お米作りの師匠や村の方々に支えられ、勉強し、努力し、体を動かす。

山友の姿をみて、現状に満足せず、課題があれば違うやり方を試してみたり、楽しみながら新しいことに挑戦するその姿勢が重要で、上手くできない時もそこであきらめず信念をもって行動し続けることこそが、成長と発展には大切だと教えられています。

（**青山　大地**）

＜お知らせ＞

「提案　情報　投稿」原稿を募集しています。連載企画の内容でも OK です。

【投稿先】　京都府勤労者山岳連盟　機関誌委員会　高野　寛

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　hirossan-1954@nifty.com

＊原稿サイズ　Ｂ５版　１行約 36 字　１頁約 36 行

＊字体　ＭＳ明朝体　１１Ｐ　余白上、左、右各２０㎜ 下２３㎜

2024年　京都府連盟　月間予定表

４月　（卯月　APR）		
1	月	自然保護委員会
2	火	事務局長会議
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	近畿ブロック搬出講習会 ハイキング班 初級コンパニオンレスキュー班
7	日	近畿ブロ搬出講習会 岩/ｾﾙﾌ/尾根班
8	月	常任理事会
9	火	
10	水	
11	木	冬山勉強会・机上「次年度の計画」
12	金	
13	土	大文字登山道整備
14	日	冬山勉強会　アイゼントレ・金比羅山 大文字登山道整備
15	月	京都労山印刷　ハイキング委員会
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	やまびこ利用日
20	土	
21	日	
22	月	常任理事会
23	火	
24	水	女性委員会
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	昭和の日
30	火	

５月　（皐月　・MAY）		
1	水	
2	木	
3	金	憲法記念日　冬山勉強会・奥穂高岳
4	土	みどりの日　奥穂高岳
5	日	こどもの日　奥穂高岳
6	月	振替休日
7	火	自然保護委員会 事務局長会議
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	公開ハイク・ポンポン山
13	月	常任理事会
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	やまびこ利用日
18	土	
19	日	
20	月	京都労山印刷　ハイキング委員会
21	火	
22	水	女性委員会
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	ハイキング委員会交流山行・比叡山
27	月	常任理事会
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	